

京都府青少年育成協会会長奨励賞

「スマホの使い方」

京都府立洛北高等学校

附属中学校 3年

龍見 祐汰



今の時代スマホは欠かせない物となっている。スマホには電話、メール、インターネット、ゲームなど様々な用途がある。私は通学で電車を利用してはいるが、周りを見渡してみると皆がスマホを触っており、どれだけ欠かせない物なのか良く分かる。スマホがとても便利なことは誰が見ても一目瞭然だろう。しかし、便利というメリットだけなのだろうか。少なからずデメリットも伴っているだろう。私はそう思う。

皆さんは、「スマホ十八の約束」をご存知だろうか。これはアメリカのマサチューセッツ州に住む母親が十三歳の子供にスマホをプレゼントする際に同時に渡した十八個の約束である。この約束の内容は全てとても大事なことが書かれている。スマホの使用時間などのことを基本的に様々なことが書かれているが、これだけで十八個の約束

が埋まるとは思えない。私は気になってもっと詳しく見てみた。すると、共感する項目や納得する項目がいくつかあったので、皆さんに是非紹介したい。まず十三個目である。「写真やビデオを膨大に撮らないこと」これだけでは不思議に思うかもしれない。しかし、まだ続きがある。

「人生経験を肌身で経験してください。全てはあなたの記憶に収録されます。」この言葉に私はとても納得させられた。確かに今の時代身近に写真をとれる機械があるのはとても便利かもしれない。加工できたり友達と共有することができるともいれない。けれど、写真が全てではないはずだ。写真には収めることの出来ないその時の感覚は記憶と共に体に残るものだ。だからスマホばかりではなく、肌身で感じて。と母親は子供に伝えたかったのだろう。次は順番が前後してしまうが八個目の項目である。「人に面と向かって言えないようなことをこの携帯を使ってメールなどではないこと」これは最近話題になっている誹謗中傷の問題と通ずるものがあると思う。匿名という立場を利用して誹謗中傷をする。相手のことを何も考えずに。そんなことをしている人に限って面と向かって話す勇気が何も無い人だと思う。このスマホという機器は相手とのコミュニケーションを図る為に人と人との間の中継地点だと、そういう風に思う必要があると思う。だから、決してそんなことをしてはいけないし、そもそも直接話せる距離にある友達とコミュニケーションを図りたいならば、できる限り直接話すべきだと思う。最後にもう一つとても良いと思った項目がある。十四個目の「時々家に携帯を置いていってください」この先にも沢山言葉が綴られているが自分で

考えてみようと思う。もし、スマホ所有者に、出かける時はスマホをいつも持って行きますか。と聞いたとしてみよう。ほぼ百パーセントの方がはいと答えるだろう。なのにこの母親は時々家に置いていきなさいと言った。何故だろう。子供に世界に目を向けて欲しかったのだろう。私はそういう解釈をした。私が電車の中で周りを見渡したら皆スマホに釘付けだったと先程言った。だが、もしその時に体が不自由な方、妊婦さん、ヘルプマークを付けた方が乗っていたとしても皆、席を譲ることが出来なかっただろう。もちろん、普段自分がずっとスマホを見ていてそのような状況に出くわしていたかもしれない。それほど皆、スマホしか見ていないのである。だから、この約束のように時々スマホのことを忘れて、世界を見渡す時間を作る必要があると思う。それはこの子供と自分に限った話ではなく、スマホを使用する皆の話である。スマホのことを忘れると、電車の中だけではなく新たな発見ができると思う。友達との会話が增えるだろう。いや、友達の間で過ぎないかもしれない。

また、自然の美しさにも気づけたりするかもしれない。たった一日でもスマホのことを忘れると本当にたくさんのことが出来るだろう。

このように、スマホは決して便利だけでは済まされることが分かった。もし、時間がある人は是非、この「スマホ十八の約束」に目を通してもらいたい。考えさせられることが沢山あるだろう。そして明日の一日くらいはスマホを家に置いてスマホのことなんか考えずに過ごしてみよう。新たな世界が待っているだろう。